



導入製品のSG200



組織

株式会社図研 [ZUKEN Inc.]

本社：神奈川県横浜市

<http://www.zuken.co.jp/index.html>

業界

電気系CAD、EDAの
トータルベンダー

課題

本社サーバに保存されている大容量のCADソフトウェアファイルを支店側のクライアントにコピーする際、ブロードバンド環境を導入したにも関わらず、待ち時間の長さが業務に支障をきたしていた。

ソリューション

支店側にBlue Coat SG200を導入してパフォーマンステストを実施したところ、最大30倍のスピードの向上を達成。今後はインターネットアクセスの情報統制を行うことで、情報漏えい対策等を図るなど、J-SOX法への対応を視野に入れてApache ProxyをBlue Coat SG810に入れ替える計画。

株式会社図研 MACH5テクノロジーの導入で、 ネットワークパフォーマンスが 最大30倍にも向上

世界中のエレクトロニクスメーカーの設計・開発・製造プロセスの効率化ソリューションを提供している図研。中でも、EDA（電子回路の自動設計）分野における電気系CAD/CAMシステムでは、国内第1位、世界第3位のシェアを誇っています。その会社では、本社（横浜）サーバに保存している大容量のCADソフトウェアファイルを、支店側（名古屋）でも利用する必要が生じたことから、ブロードバンド環境を整備したものの、パフォーマンスが思うように向上せず、待ち時間が社員のストレスとなっていました。こうした状況を解消するため会社ではBlue Coat SG200を支店に導入し、パフォーマンステストを実施。その結果、2倍から最大30倍ものスピードの向上を実現しました。今後、会社では、J-SOX対応を視野に入れて本社のApache ProxyをBlue Coat SG810に入れ替え、アクセスの情報統制を実施し、Webメール等からの情報漏えい対策等に活用していく計画です。

Q1 Blue Coat SG200導入前の問題点と、導入経緯について教えてください

図研は、日本はもとより世界中のエレクトロニクスメーカーの設計・開発・製造プロセスの効率化を実現するソリューションを提供しています。特に、EDA（電子回路の自動設計）分野では、電気系CAD/CAMシステムで、国内のみならず世界でも圧倒的なシェアを誇っています。図研のテクノロジーは、携帯電話、デジタルカメラ、液晶・プラズマテレビなど、一般の生活に身近なところにあるエレクトロニクス製品のほとんどすべてのモノづくりを支えており、その主力業務である電子回路、プリント基板などに関わる多くのCADソフトウェアファイルが本社サーバに保管されています。

2年前前から、これらのデータを支店側でも利用するというケースが増えてきました。本社（横浜）のサーバに保管されたCADソフトウェアファイルのほとんどは大容量のデータで、数十Mbpsもの容量があります。これらのデータを本社と支店（名古屋）間においても、WAN回線を経由して本社サーバから支店側のクライアントにコピーするという大容量ファイルの転送作業を行うようになりました。その作業の際の回線負荷が大きくなり速度が問題となることから、2005年に本社と全支店間のインフラを敷設し直したのです。これにより、本社と名古屋支店間の回線帯域が100Mbps（実効10Mbps）とブロードバンド化され、遅延も3～4ミリ秒と非常に少ない環境を整備しました。しかし、Windowsのファイル共有サービスで利用する拡張プロトコルのCIFS（Common Internet File System）によるファイル共有では速度が思ったほど向上しませんでした。その長い待ち時間が現場社員の大きなストレスになっていたのです。

そこで、こうした状況を解消するため、敷設したブロードバンド環境を最大限に活用できるソリューションについて検討を開始。このプロジェクトを担当したのが、図研グループの一員であり、図研のインフラ構築・運用管理を担当する図研ネットウェイブ（<http://www.znw.co.jp>）です。ネットワーク&セキュリティに関する高度なソリューションを提供している会社では、広域ネットワーク（WAN）における高速ファイル転送を可能とするネットワーク製品についてさまざまな角度から検討を行う中で、WAN上で企業アプリケーションを高速化する技術、ブルーコートシステムズの「MACH5」に注目し、導入の提案がありました。

Q2 業務において、通信速度の必要性はどの程度あったのですか？

前述のように、電気系CAD/CAMシステムは当社が国内のみならず世界でも圧倒的なシェアを誇る分野であり、電子回路、プリント基板などに関わる多くのCADソフトウェアファイルはそうした主力業務を支える重要なデータです。そこで、それらのデータが必要な時にすぐに利用できないとなると、業務の支障となってしまいます。実際、長い待ち時間が発生していたことが社員の大きなストレスになっていただけでなく、当社の主力業務において生産性を損なう大きな一因となっていました。その意味からも、ファイル転送の高速化は至上命題だったのです。



図研ネットウェイブ（株）
杉山様



図研（株）担当
鈴木様

Q3 MACH5を導入され、実際の速度計測の結果や効果はいかがでしたか？

MACH5導入のプロジェクトがスタートしたのは2006年8月のことです。そして、9月よりMACH5のテクノロジーを搭載した「Blue Coat SG200」を名古屋支店に導入して、約1カ月を掛けてさまざまなテストを実施し、検証を重ねました。その上で、10月16-17日の2日間で設置を行い、新システムがカットオーバーしました。導入の効果ですが、Blue Coat SG200の導入によって少なくとも2倍、最大では30倍ものスピードの向上を達成することができました。これにより、支社側のユーザも本社のユーザと同様にLAN並みのパフォーマンスと快適な操作環境を得ることができるようになりました。これは予想以上の成果であると共に、パフォーマンスの向上が業務の生産性向上にも大いに貢献してくれるものと考えています。

Q4 ブルーコートシステムズ製品以外に他のベンダー製品を検討されましたか？

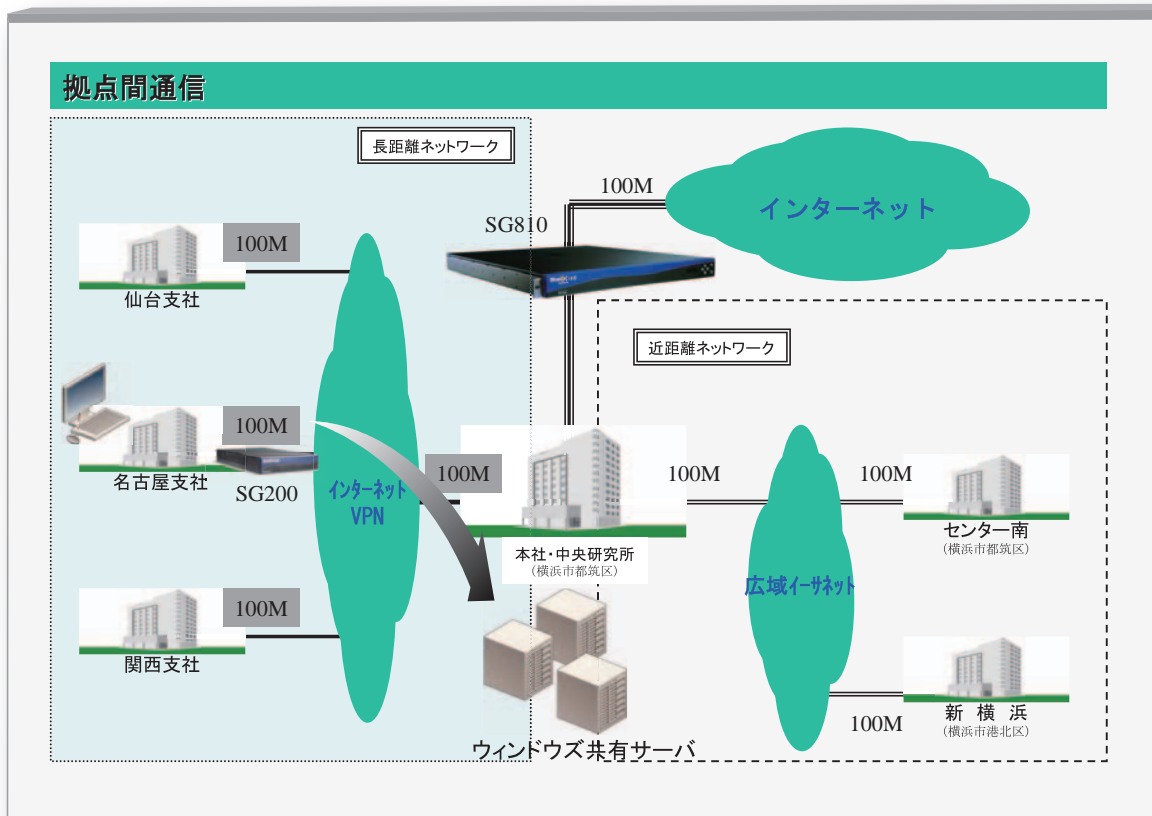
今回のプロジェクトを担当した図研ネットワークは、図研のネットワーク・インフラを熟知しています。その彼らの判断では、ブルーコートシステムズの優れたテクノロジーであるMACH5のプロトコル最適化機能を使うことで100Mbpsというブロードバンド環境下において、最大限のパフォーマンスを発揮できると強く確信しており、実際にその通りになりました。

他のベンダーの製品は、特定のWebアプリケーション利用の高速化を目指すようなポイント・ソリューションがほとんどで、対応するプロト

コルも限られていました。しかし、われわれが必要としたのは、特定のWebアプリケーションの利用ではなく、セキュアな通信を含めたマルチプロトコルへの対応でした。扱うデータが非常に重要なデータである以上、高度なセキュリティを備えていることも不可欠で、高速なパフォーマンスとWebコミュニケーションのきめ細かな制御を行えるソリューションを必要としていたのです。他社製品で多種多様な処理を実行すると、即座にレスポンスを劣化させてしまいます。その意味からも、他社製品は検討の対象になりませんでした。さらに他社製品は、本社・支社の双方に設置しなければならないものがほとんどで、それではコスト高になってしまいます。それに対して、ブルーコート製品では、Blue Coat SG200を1台支社側に入れるだけで済みますからコストパフォーマンスは抜群ですね。

Q5 今後の計画について教えてください。

図研では今回のプロジェクトを機に、本社にあるApache ProxyをBlue Coat SG810に置き換えてインターネット・ゲートウェイに設置することで、社内の情報統制を図っていく予定です。Webアプリケーションが一般化する中で、通信におけるセキュリティの確保と効率化は重要な課題ですが、Webを利用する中ではウイルス、スパイウェア、フィッシング攻撃などの脅威に対するゲートウェイ対策が欠かせません。これはJ-SOX法の実施に備えての対策の一環でもあり、さらには他の支社にもMACH5テクノロジーを導入することを検討しています。



Copyright ©2007 Blue Coat Systems, Inc. All rights reserved worldwide. . . Blue Coat Systems, Inc.の書面による事前の許可なく、この文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製、または電子媒体に複製することを禁じます。この文書に記載されている仕様は、予告なしに変更されることがあります。この文書に含まれている情報の正確性および信頼性には万全を期しておりますが、Blue Coat Systems, Inc.はいかなる利用についても一切の責任を負わないものとします。Blue Coatは米国およびその他の国における Blue Coat Systems, Inc.の登録商標です。この文書に記載されているその他の登録商標は、それぞれ各社の登録商標です。0703J-3K